

外国語教育研究所設立10周年記念号によせて

外国語教育研究所長 古賀 範理

外国語教育研究所は、1993年（平成5年）4月に設立された。その目的は、本学の外国語教育を統括し、専門的、主体的な見地に立って外国の言語、文化及び外国語教育のあり方を研究し、その成果を教育に反映させ、本学の外国語教育の充実と発展に資することであった。そして、早くも翌年3月には、研究所所員・兼担所員がそれぞれの専門分野での研究の成果を発表する研究機関誌として『久留米大学外国語教育研究所紀要』第1号が発刊された。

それから10年の歳月が流れた。外国語教育研究所はその目的に従って着実な歩みを進め、現在、英語教育、ドイツ語教育、フランス語教育、中国語教育、韓国語教育及び外国語としての日本語教育の6部門から構成されるまでに拡大された。研究機関誌『久留米大学外国語教育研究所紀要』は、所員を中心とする教員各位の学問への熱意の発露として、これまでに論文79編、研究ノート1編を掲載し、学問の発展に寄与するとともに、第7号からは外国語教育研究所の年間の教育実践活動の状況も報告するようになった。研究、教育両面にわたる充実は大変喜ばしいことであり、多くの方々のご努力・ご尽力に敬意を表するものである。

近年、人と物と情報の交流が大規模に行われるようになり、過去のどの時代よりも外国と触れ合う機会が多くなった。異文化理解教育や外国語教育の重要性はますます高まって、わが国の教育機関においてもその充実が求められている。大学は全てのレベルの言語教育を見通せる位置あり、異なる言語を使用する人々とのコミュニケーション活動をどのように進展させていくかという研究と実践はこれからますます重要なこととなるであろう。

研究所所員はこのような時代の要請を十分認識し、本学の外国語教育の充実発展に努めるとともに、それぞれの専門分野の研究レベルの向上に努力を傾注しているところである。今回、外国語教育研究所設立10周年記念号として第11号を刊行するにあたって、研究所所員がさらに研究と教育に研鑽を積み、その成果を世に問い続けられることを望むものである。